



TOPIC
1

第12回教養講演会が開催されました

令和4年12月には、今年度2回目となる第12回教養講演会を開催しました。当日、参加した教員と学生からご報告します。

演題：日本のサクラ

講師：向井 讓氏（岐阜大学名誉教授）

開催日時：令和4年12月7日（水）13時30分から15時00分

参加者数：32名（対面16名、オンライン16名）

向井先生には、我々日本人の生活（農林業、春の風物詩など）に関連の深い日本のサクラについて、ご自身のこれまでの研究成果を含めた学術的な特徴に焦点を当て、ご講演していただきました。

日本のサクラは10種（または11種）に加え、種内の遺伝的多様性が高いため、ソメイヨシノを代表とする園芸品種が200種以上あるという特徴や、花粉は昆虫によって、種子は鳥によって運ばれるサクラは、植樹などの人為的な影響も受け、遺伝子が広範囲に拡散されるという特徴などを冒頭にお話いただきました。続いて向井先生は、自身の花粉が自身の雌しべについても受粉できない「自家不和合性」に興味をもち研究を推し進めてきたこととお話されました。そのお話の中で、自家不和合性の原因遺伝子 S-RNase の解析を通じて、八丈島のオオシマザクラ野生個体でも実際に自家不和合性が機能し得ること、マイクロサテライトという手法を用いて、野生種のマメザクラ、ヤマザクラは大集団で周辺に個体が豊富にあることが要因で遺伝的多様性が高いこと、野生種のヤマザクラの半径50m以内に園芸品種のソメイヨシノがある場合は、生態的要因による制御が強く遺伝子攪乱が起こりやすいことなどを、向井先生のこれまでの研究データに基づき分かりやすく解説していただきました。

参加者の感想として、非常に手間のかかるフィールドワークを通じて膨大な研究データを蓄積してきた向井先生の素晴らしい研究活動および学生指導を垣間見ることができたご講演でした。

（島田 昌也）

【学生の感想】

講演会は、学務情報システムの通知を見て、参加させていただきました。

日本の桜について、類似する植物などの性質、生殖における特性、栽培品種に現れる性質や遺伝子など、面白い内容を聞くことができて、とても有意義でした。

講演を担当された向井先生は、私が1年生だった頃の全共の講義を担当されていた先生でもあり、少し懐かしくも感じられました。

（工学部 化学・生命工学科 4年 濱野 高志さん）

第12回教養講演会
日本のサクラ

サクラは日本を代表する樹木です。
春先には、サクラで開花予想が新聞やテレビで頻りに取り上げられ、受験の合否や入学式など学校行事とも深く関連する日本の春の風物詩です。
私が在職中に研究したサクラの種分化や多様性、栽培種の中から日本のサクラの野生種と栽培種の関係、ソメイヨシノの成り立ちやソメイヨシノの大規模な雑種が野生種に及ぼす影響などを紹介します。

◆講師 [岐阜大学 名誉教授] **向井 讓**

◆日時 令和4年12月7日 水 13:30～15:00

◆場所 岐阜大学 全学共通教育棟 103教室
(岐阜市柳ヶ下1-1)
オンライン会議ツール「Zoom」で同時配信

お申し込み・お問い合わせ
対面 以下の項目をご記入の上、メールにてお申込みください。
[宛先] gjea01024@jim.gifu-u.ac.jp
[氏名] 12月 第12回教養講演会
[本文] 氏名・所属・連絡先(メールアドレスと電話番号)
Zoomの参加URLが届きます。
<https://zoom.us/join?meetingid=9191145&secretcode=30323291>

岐阜大学全学共通教育事務局 ☎ gjea01024@jim.gifu-u.ac.jp ☎ 058-293-3007

主催 岐阜大学 教育推進学生支援機構 基盤教育センター
共催 東海国立大学機構アカデミック・セントラル・イニシアチブ・デザインチーム



向井 讓先生



工学部 化学・生命工学科 4年 濱野 高志さん



会場の様子

TOPIC 2

イングリッシュセンターの成果を検証する

英語教育の改善を目指して設置されたイングリッシュセンターは、開設5年目を迎えました。ここで、これまでの取組を棚卸しし、その教育効果を測定する試みとして、令和4年12月20日(火)に本年度第2回目のFD・SDを開催しました。

このFD・SDは、東海国立大学機構アカデミック・セントラル「インストラクショナル・デザインチーム」と共催としており、当日は岐阜大学の教員のみならず、名古屋大学からも複数の教員がオンラインで登壇しました。

内容は、イングリッシュセンター設立以前の岐阜大学の英語教育の実態の説明に始まり、統一シラバス、統一カリキュラムの話などへと展開されました。具体的には、この改革によって「英語1」から「英語4」までの連続性がより鮮明になったことや、成績評価の精度が向上し、公平性が増したことが紹介されました。一番の見どころは、今尾茂樹特任教授による、イングリッシュセンター設置前と設置後とでの教育効果、学修成果の比較でした。今尾教授の分析によって、本学の英語教育が目に見えて改善されていることが明らかとなりました。

また、筆者は、同センターがオリジナルテキストを作成していることは知っていましたが、各教員が授業で実際に用いるスライドまでもが統一され、共同で管理されていることをこのFD・SDで学び、大きな感銘を受けました。

(廣内 大輔)



会場の様子

岐阜大学
イングリッシュセンターの
挑戦と実績
～開設5年目を迎えて～

学修30(20)科目に開設されたイングリッシュセンターは、12年間の教育経験とある「英語1」～「英語4」を開設して以来、このFD・SDを通じて、センターの教育実態を広く発信し、教員と学生の両面からイングリッシュセンターの教育効果を検証する3つの教育が図られます。また、経営学部のほか、センターの開設経緯を証言することで、大学から英語教育の重要性が再認識されます。会場は、各々の所属機関によって、各々の所属機関での開催となります。

日時 令和4年12月20日(火) 13:00～14:30
場所 岐阜大学 全学共通教育棟 103教室
オンライン会議ツール(Zoom)で同時配信

PROGRAM

13:00-13:30	開会挨拶	廣内 大輔 (経営学センター)
13:30-13:35	イングリッシュセンター開設の経緯、目的、教育実態	今尾茂樹(イングリッシュセンター)
13:35-13:50	現在のイングリッシュセンターの運営について	ファンヘッド(イングリッシュセンター)
13:50-13:55	新着教員から見たイングリッシュセンター	ヒガネト 真紀 (経営学)
13:55-14:00	データから見たイングリッシュセンター	今尾 茂樹 (経営学)
14:00-14:05	名古屋大学との連携について	ディビッド(パーカー) (イングリッシュセンター)
14:05-14:10	Stadium Generaleの紹介	クワンシ(メアリー) (名古屋大学 経営学)
14:10-14:15	Mei Writing Summer Campの紹介	梅 麗香 (名古屋大学 経営学)
14:15-14:20	質疑応答	
14:20-14:25	名古屋大学から見たイングリッシュセンター	尾関 悠治 (名古屋大学 経営学)
14:25-14:30	閉会挨拶	山田 健弘 (経営学)

自由参加・お問い合わせ

以下の項目をご記入の上、メールにてお申込みください。
お問い合わせ先 gje01024@jim.gifu-u.ac.jp
TEL 058-293-3000
FAX 058-293-3000
URL https://www.gje01024.gifu-u.ac.jp
お問い合わせ先 gje01024@jim.gifu-u.ac.jp
TEL 058-293-3000
FAX 058-293-3000
URL https://www.gje01024.gifu-u.ac.jp

岐阜大学 全学共通教育棟 103教室
 東海国立大学機構 アカデミック・セントラル「インストラクショナル・デザインチーム」

TOPIC 3

令和4年度からの科目変更における現状報告

今年度、本学の全学共通教育科目では、科目の新設や変更をおこないました。総合大学である本学だからこそ、学ぶことができる科目が目白押しです。その背景には、本学の学生に対する教職員の期待が込められています。そこで、4つの科目の概要について、担当の先生方から紹介をしていただきます。

社会人リテラシー科目

社会人リテラシー科目は、オンデマンド型の授業として令和4年度に発足しました。この科目は、次の2本の柱から構成されています。1つは、卒業後の社会人として求められる日本語力の修得を目指す科目、そしてもう1つは、様々な業界で活躍する先輩社会人としてのOB/OGの経験(学生時代の過ごし方、就職活動の方法、社会人になってからの失敗体験(しくじり体験)と学び)を、動画視聴を通じて学ぶ科目です。

まず、日本語力の修得を目指す「日本語表現Ⅰ(初級)」は、日常生活のさまざまな場面で適切な日本語でコミュニケーションが図れる力、レポートや論文が執筆できる力を養います。

次に、「先輩社会人に学ぶ：爽りある学生生活を送るために」では、先輩100人の動画の中から、各自10名を選び動画を視聴します。そうすることで先輩社会人の経験から、学生時代に何をすべきかを学びます。

この2本の柱からなる学びを通じて、より能動的に未来を切り拓く力を培うことを目的としています。

(社会人リテラシー 部会長 白村 直也、副部会長 清島 絵利子)

数理・データサイエンス・AI科目

数理・データサイエンス・AIは、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」、つまり知っていて当然のこととされ、今後は、こうした知識、技能を有していない場合、キャリア形成に大きな不利益になるとされています。そこで、文部科学省は、数理・データサイエンス・AI関連分野に関し、リテラシーレベル、応用基礎レベル、エキスパートレベルの3レベルを設定し、一定水準の教育を行っている大学に対して、教育プログラムを認定する制度を開始しました。リテラシーレベルは、同分野に関して大学、高専卒業者は文系理系を問わず全員が修得すべきレベル、応用基礎レベルは大学、高専卒業者の50%が修得すべきレベルとされています。数理・データサイエンス・AI部会では、リテラシーレベル用に数理データ科学基礎を、応用基礎レベル用に数理データ科学基礎演習A、数理データ科学基礎演習Bの3科目を令和4年度から開講しています。言い換えると、数理データ科学基礎を修得すれば、文部科学省の定める数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの知識が得られ、数理データ科学基礎演習AあるいはBを修得すれば、応用基礎レベルの知識と技能が得られることを意味します。これらの講義はオンデマンド開催のため、大変、受講しやすくなっています。キャリア形成のため、積極的な受講を期待しています。(数理・データサイエンス・AI部会長 横田 康成)

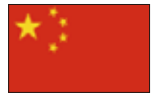
言語と文化科目

令和4年度より、第二外国語科目は「言語と文化科目」に改変されました。これまで演習授業のみであった第二外国語は、「言語と文化（講義科目）」（必修・2単位）と「第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）」（自由選択・各1単位）の2部構成となりました。

学生は、ドイツ語、フランス語、中国語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語およびアイスランド語の6つの言語の中から1つを選択して「言語と文化（講義科目）」を履修します。これは世界を相対的に捉え、多面的に考察する能力を涵養することを目的として英語圏以外の社会と文化を理解するために新しく開設された必修科目です。さらに、そこで学習する文化圏の言語を学べるように、自由選択科目として「第二外国語Ⅰ・Ⅱ（演習科目）」が開講されています。これは従来と同様の演習授業であり、アイスランド語を除く上記の5つの言語の中から選択して履修することができます。

新しくスタートした「言語と文化（講義科目）」は、言語を含む異文化の社会と文化を理解するための授業科目です。教員によってやり方は異なりますが、グループ・ワークとプレゼンのあとにディスカッションさせたり、複数の図書を提示してテーマを選ばせてレポート報告をさせるなどの工夫をこらした授業が行われています。このように他者とかかわることによって、単に異文化を理解することだけではなく、それを越えて自分とは異なるものの考え方があることを認識し、事象を多角的に捉える能力を身につけることを目指しています。学生は、おおむね興味と関心をもって受講しているようです。

（言語と文化 部会長 洞澤 伸）



岐阜学科目

「岐阜学」は、岐阜大学が独自に設けているカテゴリーで、専門分野を横断した学際的で多様な観点から岐阜を学ぶことができる科目です。岐阜の自然や産業、伝統、文化、社会、防災、まちづくりなどといった多岐に渡る科目、岐阜の企業や自治体・団体のインターンシップに参加することができる科目も揃っています。また、地域を実際に訪れ、現地調査やフィールドワークを行うもの、地域で活躍されている方々からのレクチャーが受けられる科目も多く開講されています。多くの学生が、地域での実践的な活動や地域の方々との交流を期待して受講しています。

「岐阜学」は、岐阜大学で学ぶ学生だからこそ、講義や演習をとおして地域のことを多く知り、学び、そして地域に愛着を持ってもらうことを期待して開かれている科目群です。

（岐阜学 部会長 大宮 康一）



県内企業見学の様子



森林フィールドワークの様子



地域の人たちとの対話・交流の様子

TOPIC 4

日本語表現Ⅰ（初級）における書評レポート展示

本学では、今年度から全学共通教育社会人リテラシー科目として、1年生必修のオンデマンド型授業「日本語表現Ⅰ（初級）」を開講しました。授業では、適切な日本語でコミュニケーションができ、レポートや論文が執筆できる力を養います。実際に小論文や書評レポート、書評レポートをまとめたスライドを作成し、学生同士で相互評価もおこなっています。書評レポートについては、教員の目から見ても、内容が的確にまとめてあり、読書意欲をかきたてる優秀な作品が多くみられました。

そこで、少しでも多くの学生みなさんに、本学の学生が書いた優秀なレポートに触れてもらうことで、今後の文章作成に役立ててほしいという思いから、図書館と共同開催で、10月から12月の3ヶ月間、書評レポートの展示をおこないました。前学期受講生971名のなかから、上位100名の書評レポートと合わせて対象の書籍などを展示したところ、例年の同時期に比べ約5倍の図書の貸し出しがあったそうです。また、多くの学生がブースの前に立ち止まり、スライドを見たり、書評レポートのファイルを眺めたりしていたそうです。引き続き、後学期の優秀作品は新年度4月には展示予定です。ぜひ、図書館に足を運んでみてください。



図書館での展示の様子

（日本語表現Ⅰ（初級）担当 清島 絵利子）

TOPIC 5

令和4年度高年次教養セミナーを振り返る

令和4年度も、様々な分野から10名の先生方にご講義をいただきました。本セミナーは3～4年生だけではなく、教養教育に興味関心がある1～2年生も受講することができます。ぜひ、コモンズ教室に足を運んでみてください。（清島 絵利子）

【前学期】

- 第1回：4月15日（金）横山 剛先生（高等研究院）「インド仏教と存在論」
- 第2回：5月13日（金）福井 博一先生（岐阜大学名誉教授）「世界を繋ぐバラの魅力」
- 第3回：6月24日（金）von Fragstein Alexandra 先生（地域科学部）「児童書からドイツの政治を少し知る」
- 第4回：7月8日（金）高橋 周平先生（工学部）「飛行機はどこまで速くなるのか？」
- 第5回：7月29日（金）大矢 豊先生（工学部）「組成が一定ではない酸化物と酸化物半導体」

【後学期】

- 第1回：10月7日（金）能島 暢呂先生（工学部）「地震に関する情報をどう活かすか？」
- 第2回：11月18日（金）熊谷 佳代先生（教育学部）「Yogaが未来を左右する!？」
- 第3回：12月16日（金）大宮 康一先生（地域協学センター）「アイスランド語から言葉を見る」
- 第4回：12月23日（金）海老原 章郎先生（応用生物科学部）「酵素から知る自分の体の仕組み」
- 第5回：1月20日（金）柳瀬 笑子先生（応用生物科学部）「ポリフェノールを化学から読み解く」



前学期第2回 福井 博一先生



前学期第4回 高橋 周平先生



後学期第4回 海老原 章郎先生

TOPIC 6

来年度から、「AIMS」が「TACT」に変わります！

岐阜大学で学んでいるみなさんにとって、学務情報システムとAIMS-Gifu(以下、AIMSと略記)は学生生活に欠かせないツールになっていることと思います。とりわけ、本学のLMS(Learning Management System)であるAIMSは、授業資料や授業課題、クイズなどを提示する機能を備えており、オンライン方式の授業はもちろんです、対面方式の授業でも大いに役立っているのではないのでしょうか。

そんな岐阜大学のLMS、「AIMS」ですが、来年度(令和5年度)からは新しく「TACT(TOKAI Academic Combination Tools)」というLMSに生まれ変わります。みなさんをご存知の通り、令和2年より岐阜大学は名古屋大学とともに東海国立大学機構として法人統合がなされ、名実ともに連携を深めています。TACTはこれまで名古屋大学で使われてきたLMSをベースとして、機能を強化したものです。見た目も使用方法もAIMSとは少し異なりますが、基本の機能は同じなので、みなさんならすぐに使いこなすことができるだろうと思います(いま、教員も一生懸命TACTの操作方法を勉強しているところです)。レイアウトもすっきりしていて、それぞれの項目へのアクセスもわかりやすくなっています。また、名大と共通のLMSになることで、連携開設科目などの運用もより容易になるはずですよ。

学務情報システムや、補助的に使われていたTeamsなどはそのまま継続して使用することが可能です。

新しいLMSの登場、楽しみにしていただいください！

(長谷川 暁人)



AIMSのダッシュボード



TACTのダッシュボード

基盤教育センター (令和5年2月現在)

センター長	瀬野 守	専門分野: 化学
副センター長	橋本 智裕	専門分野: 化学
副センター長	島田 昌也	専門分野: 食品栄養学
副センター長	廣内 大輔	専門分野: 高等教育論
副センター長	清島 絵利子	専門分野: 日本語学

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
 ☎ 058-293-3007 ✉ gjea01024@jim.gifu-u.ac.jp
<https://twitter.com/GifuKyouyou>
<https://www.facebook.com/GifuKyouyou>
 瀬野 守 清島 絵利子 青葉 絵里香 責任編集